

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和7年9月8日発行

「自分が知っているわたし」と「他者が知っているわたし」

～「自分にとって重要な他者からの評価がセルフ・イメージをつくる」の巻～

校長 本間 智英

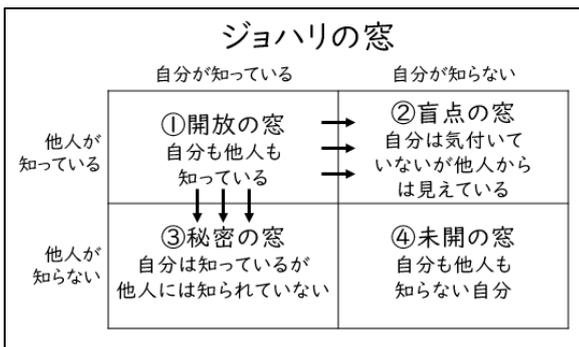
8月上旬の大雨により、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

2学期が始まり2週間が過ぎました。8月30日（土）の小木港まつりでは、大勢の保護者、地域の皆様に見守られ、組おけさ（1・2年生、民謡クラブ）とマーチング（3～6年生）を、堂々と披露してきました。大勢の皆様から大きな拍手とお声掛けをいただき、子どもたちも大変喜んでいました。そして、このような活動をとおして、子どもたちの自己肯定感も高まっていることを実感しました。ありがとうございました。



「小木港まつり」
マーチングパレード

さて、「自分のよさは何ですか？」と聞かれたら子どもたちはどう答えるでしょう。もしかしたら、他者のよさは見付けられても、自分となるとなかなか見付からない、という子ども（私もそうですが…）が多いのではないのでしょうか。



左の図は、アメリカの心理学者ジョセフ・ルフトとハリー・イングラムによって考案された『ジョハリの窓』です（ジョセフとハリーだから「ジョハリ」）。「自分」というものは、自分自身が理解している自分だけではありません。自分で気付いていない「自分」も存在します。他者に言われて初めて気付く自分の癖や性格などです。

また、自分にとって重要な人からの評価は、自分に対して抱くイメージ（セルフ・イメージ）に大きな影響を及ぼすそうです。例えば、「あなたは優しい子ね」と言われて育った子どもは、「私は優しい人間だ」というイメージをもち、そのイメージに合った行動をとるようになります。その逆で、「あなたは何をやってもダメな子ね」と言われて育った子どもは、「私は何をやってもダメな人間だ」というイメージ通りに行動するようになってしまいます。

子どもたちには自分の気付いていないよさがたくさんあります。2学期は、多くの行事が予定されています。新たなよさを発見する機会がありそうですね。